静岡県内スクールソーシャルワーカーに対する専門的研修が支援活動に与える効果の検証

大場義貴＊,1)　1)聖隷クリストファー大学

【はじめに】

近年、発達障害や不登校、貧困問題や児童虐待を背景とした学習上の支援が必要な児童生徒が増加しており、加えて家族への支援の必要性も指摘されている。2014 年の子どもの貧困対策要綱にスクールソーシャルワーカー（以後 SSW）の拡充が盛り込まれ、いわゆる困難ケースの増加に伴いSSW への期待と需要は高まってきている。一方、SSW の雇用形態は脆弱で、労働環境は厳しく、現任者の教育・研修体制は十分であるとは言えない。

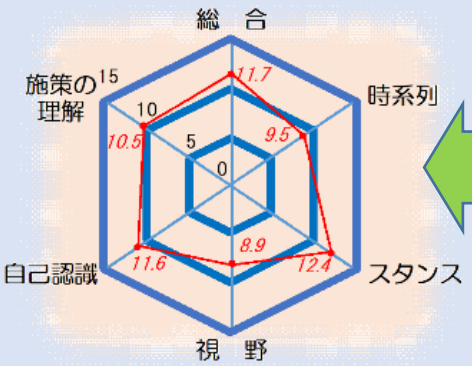
【目　的】

そこで本研究では、静岡県における SSW 現任者の基盤づくり及び質向上を目指すため、SSW 現任者に対する専門的研修の機会を提供、効果検証を行い、今後の SSW 研修のあり方を検討する。

【方　法】

① しずおかSSW 研究会世話人の協力を得て、2020 年度研修会を企画。研修会の内容は、講義（関西学院大学馬場幸子先生による「スクールソーシャルワーク実践スタンダード」）とグループワークを３回実施（会場はいずれも静岡市内）。

② ３回目終了時に、参加者へ無記名式自記式調査票等を配布、１週間程度の考慮期間後、郵送にて回収。



・視点スケールは、全30 問で、６つのカテゴリーで構成されています。
・値は、今回の回答者の平均値

・ 調査票の内容は、属性等の基本情報と先行研究等で用いられている項目で構成。
・ 研修の効果の測定は、PSW の視点スケール（進藤、大場ら,2007）を SSW 用に一部改変して使用した。

【結　果】

①	回収率	74%（n=17）
②	研修会毎の参加者数	１回目：30 名 ２回目：22 名 ３回目：23 名
③	統計的な検定の結果、性別・年齢・エリア（東部、中部、西部）・参加回数、それぞれと各カテゴリーの研修のプラスの効果には有意差が無かった。	参加者全員が、プラスの効果を実感した。
④	SSW を行っていく上で必要な研修（8 割以上が選択）	児童虐待防止、子供の貧困対策、地域連携、発達障害、専門知識向上
⑤	職務上の悩み（5 割以上が選択）	支援機関との連携、学校との連携、専門的知識、児童・生徒の理解や対応、保護者の理解や対応
⑥	悩みの相談先	エリアによって SSW のスーパーバイザーであるのか、教育委員会の担当者であるのか、またその両方であるのかが異なっていた。
⑦	学校・教育委員会に求める協力（5 割以上が選択）	児童・生徒に複数機関で関わる、検討会の開催

【結　論】

① SSW 研修の効果は、性別、年齢、エリア、参加回数に関係なく認められた。

② SSW の資質向上のためには、児童虐待・貧困対策等の研修と共に、スーパーバイズ体制の強化が求められる。またエリアの特徴を活かすことやエリア間格差を解消していくことが求められる。

③ 困難事例への支援を複数機関で連携していくためには「現状把握」、「必要な合意形成」、「連携の仕組みづくり」、「評価・改善」、「効果検証」という一連の PDCA サイクルに則った取り組みが必要である。

④ 更には、これらの取り組みを推進できるコーディネーターの養成や育成が必要である。

引き続き、SSW の資質向上研修は必要

2020 年度　地域連携プロジェクトとして、社会福祉学研究科が「浜松市における SSW の基盤強化研修及び講師（教員）の質向上」を採択（代表者：川向雅弘）

【研究協力者】
東部　後藤久美（富士市SSW・SV、静岡市SSW）／帖佐加代（沼津高専SSW）
中部　増田和美（島田市、焼津市、吉田町SSW）／斎藤朝子（静岡市、私立城南高校SSW）
西部　長坂聖子（浜松市SSW）／平川悦子（浜松市SSW・SV、県立浜松大平台高校SSW）

本研究は 2019 年度聖隷クリストファー大学地域連携推進事業研究の採択を受けたものです。